

(案)

番 号
年 月 日

経済産業大臣 あて

原子力委員会委員長

四国電力株式会社伊方発電所の原子炉の設置変更（１号、２号及び３号
原子炉施設の変更）について（答申）

平成１９年１月２６日付け平成18・10・20原第1号をもって諮問のあった標記の件に係る核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第２６条第４項において準用する同法第２４条第１項第１号、第２号及び第３号（経理的基礎に係る部分に限る。）に規定する許可の基準の適用については、別紙のとおり妥当と認める。

(別紙)

四国電力株式会社伊方発電所の原子炉の設置変更（１号、２号及び３号
原子炉施設の変更）について（答申）

１．核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（以下「法」という。）
第２４条第１項第１号（平和利用）

本申請は、

- ・ 原子炉の使用の目的（商業発電用）を変更するものではないこと
- ・ 発生する使用済燃料については、国内の再処理事業者又は我が国が平和利用協定を締結している国の再処理事業者において再処理を行うことを原則とし、再処理されるまでの間は、発電所内で適切に貯蔵・管理するという方針を変更するものではないこと
- ・ 海外において再処理を行う場合、再処理によって得られるプルトニウムは国内に持ち帰り、再処理によって得られるプルトニウムを海外に移転しようとするときは、政府の承認を受けるという方針を変更するものではないこと

から、「原子炉が平和の目的以外に利用されるおそれがないものと認められる。」とする経済産業大臣の判断は妥当である。

２．法第２４条第１項第２号（計画的遂行）

本申請は、

- ・ 原子力発電を「基幹電源に位置付けて、着実に推進していくべき」とする原子力政策大綱の方針に沿ったものであること
- ・ 発生する使用済燃料については、国内の再処理事業者又は我が国が平和利用協定を締結している国の再処理事業者において再処理を行うこととし、再処理されるまでの間は、発電所内で適切に貯蔵・管理するという方針を変更するものではなく、原子力政策大綱における我が国の核燃料サイクルに対する基本的考え方に沿ったものであること
- ・ 本原子炉の運転に伴い必要な核燃料物質については、長期購入契約等により計画的に確保することとしていること
- ・ 発生する放射性廃棄物については、原子力政策大綱における我が国の放射性廃棄物の処理・処分に対する基本的考え方に沿って適切に処理・処分するという方針を変更するものではないこと

から、「原子力の開発及び利用の計画的な遂行に支障を及ぼすおそれがないものと認められる。」とする経済産業大臣の判断は妥当である。

３．法第２４条第１項第３号（経理的基礎に係る部分に限る。）

本件申請に係る変更に伴う工事に要する資金は、約２０億円である。これらの資金

については、自己資金、社債及び一般借入金により調達する計画としている。

このことから、「原子炉施設を設置変更するために必要な経理的基礎があると認められる。」とする経済産業大臣の判断は妥当である。

18府政科技第863号
平成18年9月19日

文部科学大臣 殿

原子力委員会委員長

独立行政法人日本原子力研究開発機構大洗研究開発センター（北地区）
原子炉設置変更〔H T T R（高温工学試験研究炉）原子炉施設の変更〕
について（答申）

平成18年5月19日付け17諸文科科第2751号（平成18年8月7日付け18諸文科科第2220号をもって一部補正）をもって諮問のあった標記の件に係る核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第26条第4項において準用する同法第24条第1項第1号、第2号及び第3号（経理的基礎に係る部分に限る。）に規定する許可の基準の適用については、別紙のとおり妥当と認める。